

昭島礼拝 2020/5/10

聖書：エペソ 1:17-23

主題：神様の恵みの偉大さ

賛美：

みなさん。おはようございます。聖書はこの世界の物は移ろいゆくと教えます。しかし「イエス・キリストは、昨日も今日も、とこしえに変わることがありません。(ヘブル 13:8)」だからイエス様に従って歩みましょうと教えます。私たちの感覚としてはどうでしょうか。例えば鉛筆を買ったとしたら、鉛筆は使っていくうちに減っていきます。消耗品ですから、いつかは使えなくなると知っています。もっと大きなもので例えば家はどうでしょう。昭島教会は今年、火災保険の契約更新の時期で、補償内容の見直しをしました。保険料は年々上がっています。なぜ家や建物には保険が必要で、保険料は変動するのでしょうか。それは家や建物もいつまでも続くものではないからです。修理が必要だったり、時には建て替えも必要です。この世界にある物理的なものは全て、移ろいゆくと言われて納得できるかもしれません。では価値観はどうでしょうか。常識といわれる私たちの物の考え方はどうでしょう。実はこれも変わっています。消耗して減っているとは考えたくないですが、常識は時代によって変化します。そして今、私たちはこの新型コロナウイルスの影響で、ずいぶん急激にものの考え方を変えたと感じていると思います。常識も状況によって変化するのです。この世界にあるものは物質も、価値観もすべて変化していきます。それらはどれも完全なものではないからです。完全なものは一つしかありません。者といったら失礼ですね。完全なお方はお一人だけです。神様だけです。今日はそのようなことを考えたいと思います。

今日はエペソ人への手紙 1 章の後半を見たいと思います。1 章の前半からもうすでに繰り返されている言葉で、先週はあまり触れなかった言葉があります。それは「ほめたたえる」という言葉です。6, 12, 14, などにあります。誰をほめたたえるのかと言えば、この全ての節が「神様を」と述べています。すべてのものをキリストにあって一つとすることが神様の救いの計画であったと先週見ました。キリストにあって集められたものすべてが神様をほめたたえるようになることエペソ人への手紙は書いています。神様の栄光を、神様の恵みをほめたたえるのです。神様がほめたたえられるにふさわしいお方であるという事は、エペソ 1 章を通して様々な言葉で表現されています。先週、注目した言葉で言えば、私たちは神様の奥義のゆえにほめたたえます。あるいは神様の思慮深さ、神様の栄光、神様の恵み、神様の望み、神様の大能の力、神様の権威、そして神様の偉大さのゆえに私たちは神様をほめたたえるのです。

パウロは 1:17 で「どうか、私たちの主イエス・キリストの神、栄光の父が、神を知るための知恵と啓示の御霊を、あなたがたに与えてくださいますように。」と述べています。神様が私たちに神様の御霊、聖霊を与えて下さいますようにと祈っています。イエス様は弟子たちに聖霊を与えて下さると約束してくださいました。そしてその約束通り、神様はペンテコステの時に聖霊を弟子たちに与えられました。今もなお、イエス様を信じて従う人に、神様は聖霊を与えて下さいます。1:13、14 によれば、聖霊は証印であり、御国を受け継ぐことの保証であると書かれています。私たちが神様の壮大な計画、すべての者をキリストにあって救い、一つとしてくださるといふ奥義の保証です。聖霊が私たちに、神様がこのように壮大な計画をお持ちであり、その計画のうちに確かに私たちが加えられているという事を教えて下さるのです。お祈りの内に、言葉では言い表しがたい神様の深い慰めを経験したり、聖書を読む内に、今まで分からなかった神様の深い摂理を悟ったり、そういったことは全て聖霊の働きによります。聖霊様が私たちにこのようなことを通して教えて下さるのです。あなたは

確かに神様に愛されていて、大切にされていて、神様の壮大な計画の内に加えられています。だから安心して下さい。と語りかけてくださっているのです。パウロ自身もその聖霊からの語りかけ、慰め、知恵が与えられることを経験していました。だからみんなにも聖霊が与えられますようにと祈っています。パウロはエペソ人への手紙を書いた時、牢獄にいたと思われます。3:1 や 4:1 ではパウロは「キリストにあって囚人である」と書いています。そして 6:20 では「鎖につながれている」と書いています。牢獄にいて楽しくてしょうがないという人はいません。牢獄は辛い場所です。しかしそこにいてもなお、パウロは聖霊からの確信を得ています。自分は神様の壮大な救いの計画に加えられている。だから今の世の中で、人々がパウロをどんな目に合わせようと、最後には神様はパウロを救って下さり、御国に招き入れて下さると確信しています。そのような慰めを聖霊はパウロに与えて下さいました。だからパウロは同じようにみんなにも聖霊からの確かな保証を受け取ってもらいたいと願っています。

1:18-19 でパウロは「また、あなたがたの心の目がはっきり見えるようになって、神の召しにより与えられる望みがどのようなものか、聖徒たちが受け継ぐものがどれほど栄光に富んだものか、 19 また、神の大能の力の働きによって私たち信じる者に働く神のすぐれた力が、どれほど偉大なものであるかを、知ることができますように。」と述べています。聖霊は私たちに神様の計画、そして神様の偉大さを教えてくださいます。神様がどれだけ優れたお方であるのか、教えてくださいます。パウロが生きていた時代、この地方を支配していたのはローマ帝国でした。この時代のローマ帝国は、パクス・ロマーナという言葉で表されるように、その支配力が頂点に達し、割と安定し平和な時代であったと言われています。パクス・ロマーナとは「ローマの平和」という意味です。ローマ帝国は、当時とても広い地域を支配下に置きました。武力によってあらゆる地域を併合し、暮らしは豊かになり、様々な知識を集約し、ローマ帝国が

世界中に平和を提供しているのだと自負していました。その支配の頂点に立つローマ皇帝は、まさしくあらゆる知識と権威と大能の力を持ち、世界に繁栄と平和をもたらし、世界のかしら、神の子と呼ぶにふさわしいお方であるとされていたのです。ローマ皇帝のおかげで、ローマ市民は繁栄と平和を享受し、日々楽しく暮らすことができました。ローマ市民はローマ皇帝に感謝し、ほめたたえていたのです。これがまさに、この時代の常識でした。ローマ皇帝、ローマ帝国による繁栄と平和です。

パウロがエペソ人への手紙を書いた時代はこのような時代です。その時、クリスチャンたちはどうだったでしょうか。実はローマ市民の繁栄と平和の裏で虐げられ、迫害を受けていました。特にもともとローマの人間ではないユダヤ人たちは、戦争で侵略を受け、自分たちの住んでいた土地を徴収され、文化も言葉も制限され、何よりも、真の神様を礼拝することよりも、ローマ皇帝を崇拝することを強要されました。ローマ市民にとっての常識、パクス・ロマーナはローマ市民以外にとっては武力による圧迫と虐げでしかないのです。これが本当の平和と呼べるでしょうか。

パウロはこのような時代にあって、そして自身も牢獄に入れられてなお、聖霊から真の神様、真にほめたたえられるにふさわしいお方を知りました。そしてこの世の中の物は変化していきます。今は常識とされているローマ皇帝の提供するパクス・ロマーナもやがて消え去ります。しかし「イエス・キリストは、昨日も今日も、とこしえに変わることがありません。(ヘブル 13:8)」それをパウロは知りました。世の中で常識とされている事と、神様にある常識とは違うのです。パウロはみんなが「心の目がはっきりと見えるようになって」神様の常識を見てほしいと願っています。神様の奥義、私たちへの配慮、栄光、恵み、希望、大能の力、権威、偉大さを見てほしいと願っています。ローマ皇帝も自分の権威を主張してこのように言います。しかしローマ皇帝は永遠のお方ではありません。神様こそ永遠のお方です。ローマの常識ではなく、神様の常識こ

そ、真に私たちに必要な物です。ローマ帝国は、自分たちの支配下であれば、つまり自分たちの国の民になれば、繁栄と平和があると約束しました。しかしそれはやがて変化してしまう者に過ぎません。真にほめたたえられるにふさわしいお方、神様は、私たちを永遠の御国に招いておられます。その国の民となる人には、永遠に変わらない平和が約束されています。やがて神様の国で私たちに与えられる永遠というものが、どれほど栄光に富んだものであるか考えてみてください。聖霊がその栄光を私たちに教えてくださいますようにとパウロは書いています。ここに新約聖書のメッセージとその時代の人々の常識との対比があります。パウロが語っているのは、世の中の常識にとらわれて、神様の常識を見失わないようにという事です。

私たちは今、まさに変化しつつある常識の中に生きています。日々刻々と、こうしたほうがいい、ああした方が良いという事が変化しています。そしてそれに振り回されています。そして疲れ果てています。しかし、仕方がない事ですね。世の中の常識は変わるのです。ただ、悪い方向ではなく、良い方向へと変化してくれたらいいなと願います。では、変わることの無い常識とは何でしょう。世の中の常識が変化した時に、良い方向へ変化したと見極める基準となる、決して変わる事のない常識とは何でしょう。それこそ、聖なる神様です。神様こそ変わることなく私たちを愛し、正しく導いて下さるお方です。変化にある今こそ、私たちは神様にある常識を神様から日々、教えて頂きましょう。そして神様の偉大さをしり、慰めと希望を受け取りたいと思います。